

## 2018年度 大学入試センター試験（本試験）分析と学習のアドバイス

科目： 国語

### ◆全体概況

大問数・解答数	大問数：4題 解答数：36問
難易度	やや易
分量	例年並み

### ◆大問別分析

大問	出題分野・テーマ等	配点	分析
第1問	出典：有元典文・岡部大介『デザイン・リアリティ——集合的達成の心理学』。	50	文章自体の難易度は例年並みといえるが、文章量が昨年より1割程度増えており、読むことに時間がかかった受験生は苦勞したことだろう。さらに、文章中に図が挿入されるといった新傾向が見られ、苦戦を強いられた受験生もいただろう。その図に関する設問があり、問題文に関する図についての四人の生徒の対話が交わされる中、空欄に正しいものを入れる設問が出題された。もあり、「大学入試改革」意識した傾向と考えられる。
第2問	小説：井上荒野「キュウリいろいろ」	50	設問の中には明確な根拠を求めにくい問題が見られるため、難易度は総合的には例年並みだが、少し難しく感じた受験生もいたかもしれない。子と夫に先立たれた女性の心情という受験生には馴染みの薄い内容だったため、読みにくさを感じた人も多くいたかもしれない。
第3問	歌論『石上私淑言』	50	近年出題されていなかった歌論の文章からの出題であった。普段読み慣れていない受験生は多少戸惑ったかもしれないが、文章量も例年より短く、内容自体は読み取りやすかったため、難易度は例年よりやや易しい。問5・6に傍線がなく、本文の該当箇所と選択肢との照合が求められるもので、例年と少し異なっていた。
第4問	史伝『続資治通鑑長編』	50	北宋の政治家・寇準の宰相就任について、王嘉祐の示した政治的な見識の高さを論じた逸話であった。設問形式は、例年通りで、大きな傾向の変化はない。全体として傾向も大きく変わることもなく、設問も難解なものではなかったため、全体として例年より易しくなっているといえる。